

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470201177	事業の開始年月日	平成17年5月1日
		指定年月日	平成17年5月1日
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田		
所在地	(221-0864) 神奈川県横浜市神奈川区菅田町2975-75		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和1年10月15日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月9日

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム横浜菅田に於きましては、認知症ケアと機能訓練に特化したホームとして地域や業界からの知名度も上がって来ていると思います。コグニサイズにつきましては4年前からの取り組みが定着しており、何よりも入居者様にとって認知症予防を中心として活気のある生活が送れていることに評価を頂いております。今年度は学研主催の資格取得の教材として当ホームを取材して頂き、光栄の至りでした。生活機能向上連携として今年度の5月からPTの訪問が始まり、専門的見地からの助言を頂きプランに反映しています。今年度のESCSアンケート結果も愛の家全国269棟中ご家族満足度3位、スタッフ満足度2位を頂き、評判の良いホームとしてスタッフの励みとなる気となっております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和1年12月4日	評価機関 評価決定日	令和2年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、横浜市営地下鉄ブルーライン「片倉町駅」下車徒歩9分です。階段を上り竹林や梅林、キャベツ畑を通り抜け、緩やかな下り坂の中腹にある2階建て2ユニットのグループホームです。事業所の敷地は広く、美しい庭園のある植木業のオーナーと地続きになっています。霊峰富士を仰ぎ、眼下には環状道路や新幹線、点在する森、郊外の住宅地などを見ることが出来る眺望の良い住環境です。

<優れている点>

事業所は認知症予防などに積極的に取り組み、支援に努めています。コグニサイズ(認知症予防運動プログラム)の多くの資格職員を置くなど、日常生活の中に運動やそろばんの演算、漢字・文字のパズル、回想法、切り絵などの脳トレなど各種のプログラムに取り組んでいます。利用者はプログラムに自ら参加し、心身の残存機能の維持向上を図っています。入居時に要介護4の車いす利用者が要介護1まで改善した事例があります。事業所は開設以来職員の異動も少なく、安定した職場環境です。職員は資格取得支援制度を活用し、専門資格を取得して、スキルアップとサービスの質の向上に努めています。事業所の周辺にはいくつかの散歩コースがあり、常に利用者と職員はマンツーマンで出かけています。会話を楽しみ、周辺の景色を満喫し、散歩を楽しんでいます。

<工夫点>

周辺道路はなだらかな坂道が多く、日常の散歩道は、格好のリハビリテーションとなっています。利用者の残存機能の維持向上につながっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田
ユニット名	1F ひまわりユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域で選ばれるホームになりたいという思いを形にして行く努力をスタッフとしています。他ホームにはない取り組みとスタッフ各々の熱い思いを居宅や老健等に発信する事で当ホームを選んで下さっています。	事業所では、法人の理念を踏まえて作成した「3K（感謝・感激・感動）を心と行動に反映する」ことをモットーに実践に努めています。職員は時々自己チェックや振り返りで確認していません。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な地域交流は増えてきている。入居者様がお好きな手芸や麻雀の支援に向けて地域包括のサークルに参加している。近隣の方には災害時の一時的に避難場所に提供させて頂く事などを発信しており、運営推進会議の参加者も増えています。	町内会に加入し、回覧版で地域の情報を得ています。地域ケアプラザ主催の手芸やマージャンのサークルに参加し、地域の人達と交流を図っています。傾聴や歌の会、大正琴などのボランティアが定期的に来訪しています。高等学校の生徒が職業体験に来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケアについての専門施設として地域に向けてコグニサイズを広める活動を行っている。 地域に向けて認知症ケアの相談窓口になっている。定期的に認知症サポーター養成講座を毎年2回以上開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告は元よりご家族様からのご意見ご要望を形にする努力をしており、その結果の報告も行っている。 参加できないご家族様からのご意見も案内に記載欄があり頂いたご意見は反映できるものは形にしている。	主なメンバーは自治会代表、民生委員、地域包括支援センター担当、家族です。他に近隣住民や社会福祉協議会、高等学校、消防署長の参加もあります。活動状況や外部評価の報告、他に介護相談員やサポーター研修、家族アンケートなど活発に意見交換しています。	会議には多数の家族や地域の各分野から多くの出席者があります。多くの情報や助言、活発な意見交換を促し、更なるサービス向上に繋がって行くことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認定調査の連絡やグループホーム連絡会を通じ関わりは持つてはいるが日常的な連絡は薄いかもしれない。 協力関係が築ける様、今後の課題として努力して行きたい。	運営推進会議の報告や介護認定の申請代行、困難事例の相談など行政と連携をしています。グループホーム連絡会に参加し、後見人や困難事例、防災などの研修を受け、運営に活かしています。市の誤嚥予防や防災などの講演にも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全スタッフが、まずは「身体拘束」になるケアについての研修を入社時に実施しています。その後も定期的に年4回の研修と、身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月に1度委員会を開催し注意喚起をしています。忘れないように、身体拘束についての研修とチェックは頻度は高いと思います。	3ヶ月ごとの研修で周知徹底をしています。スピーチロックなどのチェックシートをリビングに掲示し、啓蒙に努めています。不適切な事例があれば「身体拘束廃止委員会」などで取り上げて周知に努めています。玄関のドアは防犯上施錠していますが、利用者に外出の気配があれば見守り同行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と並んで、全スタッフが定期的に研修を受ける頻度は高いです。日常の情報共有と共にスタッフ同士が注意し合える関係性を保っています。ストレスを溜めない思考回路を作るものの見方とサポートをしています。虐待は犯罪である事を教えています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に、弁護士を後見人としてを立てた入居者様がおられたため、金銭管理を含め、後見人制度について知る機会が出来た。また、選挙の投票等ご家族対応にて実施できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結は重要事項説明書に時間をかけて説明しています。改定時には本社からのサポートもあり、疑問や質問に丁寧に対応しています。ご理解頂いてもその点についてのご意見は真摯に受け止め良好な関係性は存続しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来て下さるご家族とはよく会話をさせて頂いています。その都度気づいた点をお聞きし、あればすぐに改善策を講じ実践しています。家族満足度も全国3位と高評価を頂き運営推進会議の出欠の返信欄にも意見を頂ける環境もある。	家族の面会時や運営推進会議の折に意見や要望を聞いています。利用者の活動状況や個別の様子は「便り」で家族に定期的に送り、知らせています。タンスの整理整頓、うがいコップの改善、看取りについての意見・要望などがあり検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議、ユニット会議は勿論のこと、運営に関して全員が参加している環境であると感じている。提案も多く、スタッフの行動力がありすぐに実施できる環境を作っている。コスト管理も意識を高く持っている。ホームの特色を輝かせようと努力している。	各会議の際に職員の意見や要望、提案を聞く機会を作っています。個人面談の時も同様に聞いています。管理者は職員と常に意見交換ができる職場環境を作っています。行事やイベントの企画提案、シフト作成時など職員の要望や意見は運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスの充実としてスタッフ評価制度が導入されました。導入から2度目の評価が終わり、給与アップされたスタッフが多くいます。努力、実績が反映される体制になっています。スタッフ満足度も高く職場環境はとても良いと思います。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内でもベーシック研修やマスター研修、OJT研修、CM研修等、年間スケジュールに組み開催しており、職員を育てる仕組みは出来ています。実務者研修等、資格支援制度（補助金）があります。当ホームについては職員育成の体制が良く整っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所へのヘルプを通じネットワーク作りが出来ている。他事業所が見学に来られる事はあっても他施設見学の機会が少ないので少人数毎に他施設見学を実施した。全員にまだ行き届いていないので継続している。良い点をすぐに取り入れて実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居初日にはブーケを準備して大歓迎しています。最初の段階でアセスメントをしっかりと取っており、初日には既にご本人と面識がある様な雰囲気を持って対応する事で自分を知っている人がホームに居る安心感を持って下さる。居室担当者も付いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期の段階では、ホームに慣れるかどうかをほとんどの方が心配される為、上記の様なアプローチを取る事や入居後初日から数日間には要望があれば電話にて報告させて頂き安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期プランにてホームに慣れて頂く様、支援しながらも、その時点での必要となる支援を抽出できる様、観察しています。初期には記録も細やかに記すようにしています。その中で必要なサービスを見極め次回プランに繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と共に衣食住を含め日常の暮らしの中で生活に必要な作業を共に行っています。スタッフの手伝いを通しやりがいと居場所を作っています。共存する意識は培えていると思います。また、相談事を持ちかけたり等、人生の先輩として職員が入居者様を頼りにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	最善のケアをする為にはご家族様のご意見が的確であることも多く、助言を頂いています。ご家族様満足度において全国3位と、過去最高を頂いた事も関係性は良いと感じています。ホームを盛り上げたい気持ちはご家族と共にあると実感しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人にとって馴染みの方には手紙やハガキを書いて頂いたり、の支援は続いています。イベントの招待をさせて頂くこともあり、実際に参加居て下さっています。旧友の方が訪ねて来られた時にはホームで撮った写真を承諾のもと、郵送させて頂いています。	友人や知人が来訪した時は、居室などで湯茶の接待をしています。利用者の手紙や電話の交信の支援、絵や編み物、手芸などの趣味の継続に努めています。家族の協力で彼岸の墓参りや親せき回りなどの支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合いそうな入居者様同士、隣席にしたり、職員が関わりを仲介し仲間意識を持つ事で良い関係性が保てる様、努めています。部屋に閉籠り気味の方も時間を見てリビングでお茶やレクリエーションにお誘いしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移転された後にも面会等を通じ、関係性を大切に相談に乗ったりしています。特養に移転されたご家族から義理のお母様を入居させたいと電話を頂いた事もあります。お亡くなりになられてもご連絡を頂いている方もおられます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを通しご本人の希望等は常に把握しており実現に向けて務めています。その他の意向について表現が困難な場合は選択肢を提示し意向を汲み取る努力もしています。	日常の会話を通して把握しています。アセスメントや生活歴からも把握しています。利用者によっては、散歩や入浴の際など、1対1の場で把握することもあります。意思表示の困難な利用者は選択肢の提案や態度、仕草などのサインで汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	見学時やご入居前のアセスメントをしっかり取るように努めています。また、アセスメント用紙をお渡しして生活歴や環境、趣味嗜好の把握を出来るだけ多く収集し、良いケアプランに繋げる努力をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日2回の申し送りにて一人一人の心身の状態の把握と経過観察が出来ていると思います。殆ど居室に引きこもる事が無く一日のスケジュールにほぼ寄り添い、過ごし方の把握も変化も見つけやすいです。入居者様とスタッフの距離感は近いと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	面会時には必ずケアについて話をさせて頂いており日常にご家族の意向は汲み取っていると思います。面会の少ないご家族には電話で報連相をしています。担当者会議の家族の参加が少し増えてきました。医療機関関係者も積極的に参加して頂く傾向にあります。	モニタリングは毎日実施しています。計画の実施は「サービス内容実施記録」に反映しています。計画の見直しは3ヶ月ごとに職員や計画担当、管理者、時には家族の参加で行っています。本人や家族の意見、医療情報も計画書に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に反映しやすい様、各々の記録の頁にケアプランを綴じ、いつでもサービス内容が確認でき、実施しやすいようにしている。実施の記録も必ず残されている。記録とモニタリングにて情報共有されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族が外部の通院対応が困難な時には代行しています。ご本人の趣味の実現にサークル活動（手芸、麻雀サークル）に同行する等、個別ケアにも尽力しています。今後共用デイ開設に向けて情報収集と準備に力を入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括に出向き様々な催しやサークルに参加し趣味活動の実現を支援。ショッピングモールへ買物にお連れしたりコーヒーのお好きな方をコンビニですが挽きたてコーヒーを飲みにお連れしています。横浜市のおむつの補助、傾聴ボランティア等の繋がりも厚いです。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医の選択は家族が納得して契約しています。日常的に心身の様子や受診結果や体調の報告を家族と主治医との報連相の上、適切な医療が受けられています。薬の調整や専門医への受診等も本人家族との協議が成されています。	利用者及び家族の了解の下、利用者全員が事業所の協力医をかかりつけ医としています。整形外科や皮膚科、眼科、精神科などの外来受診は家族対応で了解を得ています。やむを得ない場合は職員が同行支援しており、適切な医療受診の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診医や往診看護師、訪問看護師との連携は取れています。入居者様に日常の変化があればいつでも相談しやすく、適切なアドバイスを頂けており、外部受診の指示のタイミングも適切であると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフが付き添うか、ご家族対応の場合でも情報の細かい交換をしています。入居者様に安心して頂く為に面会にて医療情報をまめに頂き経過によっては早期退院に向け寝たきりや歩行低下を避けています。病院への営業にて関係作りも努力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の指針について書面にてお伝えしています。主治医、家族と話し合いをし、必要な処置（ハード面、薬物療法等）を講じている準備はあります。看取りの研修等も行っており、ギリギリまでホームにてケアしている状況です。	重度化した場合の指針や看取り介護にかかわる指針について説明し、同意書を交わしています。また、延命についても話し合い、同意書を交わしています。看取りの実績はまだありませんが、終末期や看取りに関する研修を行い、職員は理解し、今後に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回の防災訓練時に消防署の協力を得て緊急対応や心肺蘇生法AEDの使用法を全職員が訓練を受講しています。それらを含む、緊急時の対応の研修はホーム会議でも行っており全職員が対応できる様支援しています。新人スタッフは早期に訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て設備点検や消火器に使い方は熟知しており、避難訓練も頻繁に行っている。訓練時にはオーナーを始め、近隣の方々と協力し合える体制と、ホーム側も非常食等の提供ができる体制にある事や避難所として提供できる事等を近隣の方へ発信しています。	消防署や近隣住民の協力を得て年2回定期的に実施しています。「防火用自主点検表」で毎日安全確認のチェックを行っています。地元自治会と「消防応援協力に関する覚書」を結び、協力体制を築いています。非常災害用備蓄品として30人分の飲食品と災害用備品を備えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様に対し人生の先輩としての敬意を忘れぬ様、配慮した上で当人にとって丁度良いと思っ下さる距離感を計りながら接しています。トイレ誘導時の声掛けもさりげなく行い、入浴介助も出来る限り同性介助を心掛けプライバシーを尊重しています。	年2回、プライバシー保護と権利擁護の内部研修を実施し、職員の意識向上を図っています。利用者への呼びかけは「さん」付けとしています。同じ目線で接し、言葉遣いや態度に気を付け、一方的な支援を行わないようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が難しくなられた方には選択肢を挙げて試みる等しています。時には「オープン・クローズド」の質問形式など対応を変えて質問し自己決定の機会を作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	多くの方は自己管理が困難となった方であるので、その方には、何をしたらよいか混乱する前に行動パターンの選択肢をこちらから提供する形を取る場合もあります。ご本人のペースは尊重し急がせたりは絶対せずに居室で過ごしたい希望も尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様は女性が多く、まだまだオシャレを楽しんで頂き、常に綺麗にして頂きたいというスタッフの思いもあることからメイク道具等を並べて楽しんで実際に一緒にメイクをさせて頂く機会も多くあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や後片付けも出来る方にはやっています。玉ねぎの皮むき、ニンジンの皮むきは入居者様にやって頂く事が多いです。入居者様を中心に餃子やおにぎり、パンケーキを作る機会は増えています。	栄養士によりカロリー計算された献立に基づき、調理専任職員が利用者の状態に合わせ調理し、温かいものは温かく提供しています。庭のテラスで湯茶を楽しむ機会もあります。四季折々のイベント食や外に出かけてラーメンや回転ずしを楽しむ機会も設けています。	月1回利用者と食事を作る日を設ける構想があります。利用者の楽しみとして、また、調理レクリエーションの一環として取り組み、実現することも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全員の水分量をチェック表を記し不足しないようにしています。入居者様の中には塩分制限や水分制限、嚥下機能低下した入居者様にはミキサー食で対応の方もおられますのでそれぞれに合った対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行っています。義歯の着脱、食べかす等の除去も介助や見守りで出来ています。口腔内の濯ぎも十分できていますが困難な方については介助して磨き直しをしています。デンタルにて週一で口腔ケアの依頼をしている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表からリズムを掴み、トイレ誘導し尿失禁を防ぐ事が出来ている方もおられます。尿意便意の無い方は時間を見て排泄のタイミングを見て誘導し、トイレでの排泄を支援しています。	トイレでの排泄を基本としています。排泄チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援しています。日々の支援や毎日実施している「コグニサイズ」により、尿パッドの使用量が減ったり、介護度が下がった人も数名います。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動量が多い方だと思います。体操、散歩、腹圧をかけるリハビリ体操、便秘解消体操をメニューに取り入れています。水分も小まめに提供し不足の無いようにし、食事のメニューにはヨーグルトも多く出ています。個別に腸マッサージもしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴の希望があれば入って頂いているが入浴があまりお好きではない入居者様が多数の為、二日～三日に一度は入れるように組んでいます。入浴剤等を工夫して楽しんで頂いています。個々に応じ介助量も調整し安全に配慮しながら自立支援しています。	入浴は週2～3回、1日3～4人、利用者の体調に応じて入浴しています。マンツーマンで支援し、湯舟で楽しんでもらうようにしています。湯や足ふきマットは利用者ごとに取り換え、清潔を保っています。入浴拒否の人にはあの手この手の工夫で誘導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入床前のゆったりとした時間が持てるように配慮しています。テレビ鑑賞の時間も尊重しています。夜間も巡回や近くに居る事を伝え安心して頂き、程良い空調で安眠できる様にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	命を預かる者として入居者様の処方内容は職員全員が把握できる様往診記録に細かく記しており説明書も常に見える場所にファイルし確認しています。変更があった場合の症状の細かい記録もし、誤薬が無い様に三重チェック確認の上服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で力を発揮する事で「出来る」と言う自信が付き役に立っていると思え生きる力となっておられる。感謝の気持ちを口にする事で張り合いを持って頂いています。ご本人の趣味が發揮できる時間を設けております。ドライブや外出外食が気分転換になっていると思います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外に出向き季節を感じて頂く支援は頻繁に行っています。個別にその方の希望の場所へお連れする支援も行っていますが、最近では近場の外出が多くなっていますが、居酒屋や珈琲店へは定期的にお連れしています。	天気の良い日は毎日、1対1で散歩に出かけています。散歩コースは4コースあり利用者の状態に応じて決めています。四季折々の外出や、利用者の希望でスーパーマーケットやコンビニエンスストア、麻雀店などへの外出もあります。馴染みの職員と居酒屋へ行く利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いを預らせて頂いており、ご本人が希望される買い物と一緒に出向きご自身が財布から支払って頂く事も行っています。またホームに移動販売のお菓子屋さんに来てご本人がおやつを購入する機会もあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月に一度のホーム便りの中にご本人からの手紙を一筆箋ですが入れてさせて頂いています。ご希望があればいつでもホームから電話が出来る環境にあります。個人携帯電話をお持ちの方もおられます。ご友人と文通されている方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム周辺は緑に囲まれており静かな環境にある。季節の花を身近で感じる事もできる。玄関やホーム内の庭やフロアにも花がある環境。ホーム内の空調もほど良く陽当たりも良く居心地の良さが感じられる。13年目の建物としては綺麗に使っている方である。居室内の整備も努力している。	事業所開設から13年経ちますが、共用の空間は清掃が行き届き、嫌な臭いもなく明るく清潔です。食堂兼リビングや回廊の壁面に、利用者の作品や楽しそうな行事写真を掲示しています。また、クリスマスの装飾が季節を感じます。利用者は廊下に置かれたソファで思い思いに過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他廊下や玄関、庭にもベンチやソファが置かれ、陽当たりのよい寛ぎの空間で庭の花を見ながらゆったり出来るようになっていきます。昼食後等はそこで入居者様同士が歓談する姿が毎日見られています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様とレイアウトを考えながら配置しています。仏壇をお持ちになっておられる方もおられます。プライバシーが尊重される個室であり、好きな時に居室で休んで頂けるようになっていきます。最近は使い慣れた家具をお持ちになる方が少なくなっている。	使い慣れた家具や馴染みの品物、仏壇、家族写真などを持ち込んでいます。ベッドは本人の状態に合わせ、安全な動線になるように配置しています。居室担当者が室内の整理整頓を手伝い、生活環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	タンスにテプラを貼り、種類ごとに衣類の整理がご自分で出来るように工夫しています。食器の後片付け、洗面台の掃除、スタッフと一緒に床にクイックルワイパーを掛けて頂く等、自立支援しています。		

事業所名	愛の家グループホーム横浜菅田
ユニット名	2Fあじさいユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域で選ばれるホームになりたいという思いを形にして行く努力をスタッフとしています。他ホームにはない取り組みとスタッフ各々の熱い思いを居宅や老健等に発信する事で当ホームを選んで下さっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な地域交流は増えてきている。入居者様がお好きな手芸や麻雀の支援に向けて地域包括のサークルに参加している。近隣の方には災害時の一時的に避難場所に提供させて頂く事などを発信しており、運営推進会議の参加者も増えていきます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケアについての専門施設として地域に向けてコグニサイズを広める活動を行っている。 地域に向けて認知症ケアの相談窓口になっている。定期的に認知症サポーター養成講座を毎年2回以上開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動報告は元よりご家族様からのご意見ご要望を形にする努力をされており、その結果の報告も行っている。 参加できないご家族様からのご意見も案内に記載欄があり頂いたご意見は反映できるものは形にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	認定調査の連絡やグループホーム連絡会を通じ関わりは持っているが日常的な連絡は薄いかもしれない。 協力関係が築ける様、今後の課題として努力して行きたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全スタッフが、まずは「身体拘束」になるケアについての研修を入社時に実施しています。その後も定期的に年4回の研修と、身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月に1度委員会を開催し注意喚起をしています。忘れないように、身体拘束についての研修とチェックは頻度は高いと思います。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と並んで、全スタッフが定期的に研修を受ける頻度は高いです。日常の情報共有と共にスタッフ同士が注意し合える関係性を保っています。ストレスを溜めない思考回路を作るものの見方とサポートをしています。虐待は犯罪である事を教えています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に、弁護士を後見人としてを立てた入居者様がおられたため、金銭管理を含め、後見人制度について知る機会が出来た。また、選挙の投票等ご家族対応にて実施できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結は重要事項説明書に時間をかけて説明しています。改定時には本社からのサポートもあり、疑問や質問に丁寧に対応しています。ご理解頂いてもその点についてのご意見は真摯に受け止め良好な関係性は存続しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来て下さるご家族とはよく会話をさせて頂いています。その都度気づいた点をお聞きし、あればすぐに改善策を講じ実践しています。家族満足度も全国3位と高評価を頂き運営推進会議の出欠の返信欄にも意見を頂ける環境もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会議、ユニット会議は勿論のこと、運営に関して全員が参加している環境であると感じている。提案も多く、スタッフの行動力がありすぐに実施できる環境を作っている。コスト管理も意識を高く持っている。ホームの特色を輝かせようと努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスの充実としてスタッフ評価制度が導入されました。導入から2度目の評価が終わり、給与アップされたスタッフが多くいます。努力、実績が反映される体制になっています。スタッフ満足度も高く職場環境はとても良いと思います。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内でもベーシック研修やマスター研修、OJT研修、CM研修等、年間スケジュールに組み開催しており、職員を育てる仕組みは出来ています。実務者研修等、資格支援制度（補助金）があります。当ホームについては職員育成の体制が良く整っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所へのヘルプを通じネットワーク作りが出来ている。他事業所が見学に来られる事はあっても他施設見学の機会が少ないので少人数毎に他施設見学を実施した。全員にまだ行き届いていないので継続している。良い点をすぐに取り入れて実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居初日にはブーケを準備して大歓迎しています。最初の段階でアセスメントをしっかりと取っており、初日には既にご本人と面識がある様な雰囲気を持って対応する事で自分を知っている人がホームに居る安心感は持って下さる。居室担当者も付いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初期の段階では、ホームに慣れるかどうかをほとんどの方が心配される為、上記の様なアプローチを取る事や入居後初日から数日間は要望があれば電話にて報告させて頂き安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期プランにてホームに慣れて頂く様、支援しながらも、その時点での必要となる支援を抽出できる様、観察しています。初期には記録も細やかに記すようにしています。その中で必要なサービスを見極め次回プランに繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と共に衣食住を含め日常の暮らしの中で生活に必要な作業を共に行っています。スタッフの手伝いを通しやりがいと居場所を作って頂いています。共存する意識は培えていると思います。また、相談事を持ちかけたり等、人生の先輩として職員が入居者様を頼りにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	最善のケアをする為にはご家族様のご意見が的確であることも多く、助言を頂いています。ご家族様満足度において全国3位と、過去最高を頂いた事も関係性は良いと感じています。ホームを盛り上げたい気持ちはご家族と共にあると実感しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人にとって馴染みの方には手紙やハガキを書いて頂いたり、の支援は続いています。イベントの招待をさせて頂くこともあり、実際に参加居て下さっています。旧友の方が訪ねて来られた時にはホームで撮った写真を承諾のもと、郵送させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合いそうな入居者様同士、隣席にしたり、職員が関わりを仲介し仲間意識を持つ事で良い関係性が保てる様、努めています。部屋に閉籠り気味の方も時間を見てリビングでお茶やレクリエーションにお誘いしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移転された後にも面会等を通じ、関係性を大切に相談に乗ったりしています。特養に移転されたご家族から義理のお母様を入居させたいと電話を頂いた事もあります。お亡くなりになられてもご連絡を頂いている方もおられます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを通しご本人の希望等は常に把握しており実現に向けて務めています。その他の意向について表現が困難な場合は選択肢を提示し意向を汲み取る努力もしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	見学時やご入居前のアセスメントをしっかりとるように努めています。また、アセスメント用紙をお渡しして生活歴や環境、趣味嗜好の把握を出来るだけ多く収集し、良いケアプランに繋げる努力をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日2回の申し送りにて一人一人の心身の状態の把握と経過観察が出来ていると思います。殆ど居室に引きこもる事が無く一日のスケジュールにはほぼ寄り添い、過ごし方の把握も変化も見つけやすいです。入居者様とスタッフの距離感は近いと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	面会時には必ずケアについて話をさせて頂いており日常にご家族の意向は汲み取っていると思います。面会の少ないご家族には電話で報連相をしています。担当者会議の家族の参加が少し増えてきました。医療機関関係者も積極的に参加して頂く傾向にあります。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に反映しやすい様、各々の記録の頁にケアプランを綴じ、いつでもサービス内容が確認でき、実施しやすいようにしている。実施の記録も必ず残されている。記録とモニタリングにて情報共有されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族が外部の通院対応が困難な時には代行しています。ご本人の趣味の実現にサークル活動（手芸、麻雀サークル）に同行する等、個別ケアにも尽力しています。今後共用デイ開設に向けて情報収集と準備に力を入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括に出向き様々な催しやサークルに参加し趣味活動の実現を支援。ショッピングモールへ買物にお連れしたりコーヒーのお好きな方をコンビニですが挽きたてコーヒーを飲みにお連れしています。横浜市のおむつの補助、傾聴ボランティア等の繋がりも厚いです。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医の選択は家族が納得して契約しています。日常的に心身の様子を受診結果や体調の報告を家族と主治医との報連相の上、適切な医療が受けられています。薬の調整や専門医への受診等も本人家族との協議が成されています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診医や往診看護師、訪問看護師との連携は取れています。入居者様に日常の変化があればいつでも相談しやすく、適切なアドバイスを頂けており、外部受診の指示のタイミングも適切であると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはスタッフが付き添うか、ご家族対応の場合でも情報の細かい交換をしています。入居者様に安心して頂く為に面会にて医療情報をまめに頂き経過によっては早期退院に向け寝たきりや歩行低下を避けています。病院への営業にて関係作りも努力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の指針について書面にてお伝えしています。主治医、家族と話し合いをし、必要な処置（ハード面、薬物療法等）を講じている準備はあります。看取りの研修等も行っており、ギリギリまでホームにてケアしている状況です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回の防災訓練時に消防署の協力を得て緊急対応や心肺蘇生法AEDの使用法を全職員が訓練を受講しています。それらを含む、緊急時の対応の研修はホーム会議でも行っており全職員が対応できる様支援しています。新人スタッフは早期に訓練しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て設備点検や消化器に使い方は熟知しており、避難訓練も頻繁に行っている。訓練時にはオーナーを始め、近隣の方々と協力し合える体制と、ホーム側も非常食等の提供ができる体制にある事や避難所として提供できる事等を近隣の方へ発信しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様に対し人生の先輩としての敬意を忘れぬ様、配慮した上で当人にとって丁度良いと思っ下さる距離感を計りながら接しています。トイレ誘導時の声掛けもさりげなく行い、入浴介助も出来る限り同性介助を心掛けプライバシーを尊重しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が難しくなられた方には選択肢を挙げて試みる等しています。時には「オープン・クローズド」の質問形式など対応を変えて質問し自己決定の機会を作るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	多くの方は自己管理が困難となった方であるので、その方には、何をしたらよいか混乱する前に行動パターンを選択肢をこちらから提供する形を取る場合もあります。ご本人のペースは尊重し急がせたりは絶対せずに居室で過ごしたい希望も尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者様は女性が多く、まだまだオシャレを楽しんで頂き、常に綺麗にして頂きたいというスタッフの思いもあることからメイク道具等を並べて楽しんで実際に一緒にメイクをさせて頂く機会も多くあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や後片付けも出来る方にはやって頂いています。玉ねぎの皮むき、ニンジンの皮むきは入居者様にやって頂く事が多です。入居者様を中心に餃子やおにぎり、パンケーキを作る機会は増えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全員の水分量をチェック表を記し不足しないようにしています。入居者様の中には塩分制限や水分制限、嚥下機能低下した入居者様にはミキサー食で対応の方もおられますのでそれぞれに合った対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行っています。義歯の着脱、食べかす等の除去も介助や見守りで出来ています。口腔内の濯ぎも十分できていますが困難な方については介助して磨き直しをしています。デンタルにて週一で口腔ケアの依頼をしている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表からリズムを掴み、トイレ誘導し尿失禁を防ぐ事が出来ている方もおられます。尿意便意の無い方は時間を見て排泄のタイミングを見て誘導し、トイレでの排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動量が多い方だと思います。体操、散歩、腹圧をかけるリハビリ体操、便秘解消体操をメニューに取り入れています。水分も小まめに提供し不足の無いようにし、食事のメニューにはヨーグルトも多く出ています。個別に腸マッサージもしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴の希望があれば入って頂いているが入浴があまりお好きではない入居様が多数の為、二日～三日に一度は入れるように組んでいます。入浴剤等を工夫して楽しんで頂いています。個々に応じ介助量も調整し安全に配慮しながら自立支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入床前のゆったりとした時間が持てるように配慮しています。テレビ鑑賞の時間も尊重しています。夜間も巡回や近くに居る事を伝え安心して頂き、程良い空調で安眠できる様にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	命を預かる者として入居者様の処方内容は職員全員が把握できる様往診記録に細かく記しており説明書も常に見える場所にファイルし確認しています。変更があった場合の症状の細かい記録もし、誤薬が無い様に三重チェック確認の上服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で力を発揮する事で「出来る」と言う自信が付き役に立っていると思え生きる力となっておられる。感謝の気持ちを口にする事で張り合いを持って頂いています。ご本人の趣味が発揮できる時間を設けております。ドライブや外出外食が気分転換になっていると思います。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外に出向き季節を感じて頂く支援は頻繁に行っています。個別にその方の希望の場所へお連れする支援も行っていますが最近は近場の外出が多くなっていますが、居酒屋や珈琲店へは定期的にお連れしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いを預らせて頂いており、ご本人が希望される買い物と一緒に出向きご自身が財布から支払って頂く事も行っています。またホームに移動販売のお菓子屋さんが来てご本人がおやつを購入する機会もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月に一度のホーム便りの中にご本人からの手紙を一筆箋ですが入れてさせて頂いています。ご希望があればいつでもホームから電話が出来る環境にあります。個人携帯電話をお持ちの方もおられます。ご友人と文通されている方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム周辺は緑に囲まれており静かな環境にある。季節の花を身近で感じる事もできる。玄関やホーム内の庭やフロアにも花がある環境。ホーム内の空調もほど良く陽当たりも良く居心地の良さが感じられる。13年目の建物としては綺麗に使っている方である。居室内の整備も努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他廊下や玄関、庭にもベンチやソファが置かれ、陽当たりのよい寛ぎの空間で庭の花を見ながらゆったり出来るようになっていきます。昼食後等はそこで入居者様同士が歓談する姿が毎日見られています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様とレイアウトを考えながら配置しています。仏壇をお持ちになっておられる方もおられます。プライバシーが尊重される個室であり、好きな時に居室で休んで頂けるようになっていきます。最近は使い慣れた家具をお持ちになる方が少なくなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	タンスにテプラを貼り、種類ごとに衣類の整理がご自分で出来るように工夫しています。食器の後片付け、洗面台の掃除、スタッフと一緒に床にクイックルワイパーを掛けて頂く等、自立支援しています。		

2019年度

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム横浜菅田

作成日： 2020年 3 月 5 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	個室の床や机・椅子の背などがベタベタしている時があり、拭き掃除が行き届いていないのかと思う点。 (居室でコーヒーや差し入れのお菓子を召し上がる方の居室は汚れやすいので特に力を入れる)	毎日の居室掃除に力を入れる。クイックルワイパーやダスキンだけでなく、拭き掃除に更に力を入れる。 居室担当による整備強化、日勤によるフォローも実施。	①業務フローにて居室清掃担当者の確定。 ②クイックルワイパー掛け(ベッド下も) ③ダスキンにてTVや棚のホコリを除去。 ④雑巾を固く絞り、机、椅子、テーブル、床の汚れも必ず拭き取る。	2ヶ月
2	5	「入居依頼、体重が増加。高齢の為、つまずきや散歩での息切れが心配。」とのご意見から健康管理に関する課題あり。 一日を通して居室に籠られ横になられる時間が多く運動量も低下している。	体重増加は、膝の痛みや心臓への負担等、多方面に影響が出る為、標準体重に近づける様、食事量、運動量を調整する。	①1日を通し数回取っておられる、居室での休憩は、短めに30分程度とする。 ②脳トレ等の不得意な分野を見直し、居づらくならない様、達成しやすいレクリエーションを提供する。 ③散歩以外に、室内歩行をケアプランに入れる。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月